

そのグローバル教育は最適か？

ま と め

本特集のまとめとして、今提供しているグローバル教育が、学生・大学双方にとって最適なものか、確認するための検証項目をまとめた。学生を世に送り出す最終教育機関として、効果的で特色ある教育を各大学が提供できるか否かは、これからの日本の命運を左右するといえる。横並びの「とりあえず」なグローバル教育になっていないか、点検してほしい。



✈ 学生にとって

- 4年間で段階的にどのように育てていくかが設計され、それが明示されているか？
- 英語教育は学生の能力を正確に把握し、能力と目標に合ったクラス分け、内容、講師となっているか？
- 留学制度の目的は明確か？ それに合った派遣先、期間、プログラムか？
- 学生の留学への目的意識を明確化させる工夫はなされているか？
- 留学前後の語学教育プログラムは十分か？
- グローバル教育と専門課程の連携はなされているか？
- 各プログラムは、学生の能力やニーズを把握したうえでの内容になっているか？
- 学生にロールモデルを提示できているか？

✈ 大学にとって

- 高校や高校生、保護者、就職先の企業への広報活動は十分か？
- 在学生へのプログラムの広報活動は十分か？
- トップの方針や中長期計画と合致しているか？
- DPから逆算したプログラム設計になっているか？
- 一部の部署だけの取り組みになっていないか？ あるいは各部署バラバラの取り組みで学生にとってわかりにくく、相乗効果の薄いものになっていないか？
- 旧来の枠組みやリソースにとらわれすぎているか？
- 学生だけでなく、教職員の国際化への取り組みは進んでいるか？
- 取り組みの効果や学生募集への影響を検証し、それに合わせて改善修正が図れているか？